

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	富山情報ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 浦山学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業	高度情報システム	夜・通信	420時間	320時間	
	情報システム	夜・通信	570時間	160時間	
商業実務	モバイルビジネス	夜・通信	780時間	160時間	
	ホテル・ブライダル	夜・通信	210時間	160時間	
	医療事務	夜・通信	240時間	160時間	
	診療情報管理士専攻	夜・通信	90時間	80時間	
	インターナショナルビジネス	夜・通信	420時間	160時間	
(備考) 高度情報システム学科は平成31年度4月より募集停止。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.bit.urayama.ac.jp/bitbox#information

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名 該当なし
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	富山情報ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 浦山学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.urayama.ac.jp/report/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	阪神化成工業（株） 代表取締役	2021. 4. 1 ～ 2023. 3. 31	学校経営・運営に対する評価・意見
非常勤	（株）文苑堂書店 代表取締役会長	2021. 4. 1 ～ 2023. 3. 31	学校経営・運営に対する評価・意見
非常勤	元富山県立高等学校 校長	2021. 4. 1 ～ 2023. 3. 31	学校経営・運営に対する評価・意見
非常勤	（株）ジェック経営コンサルタント 代表取締役社長	2021. 4. 1 ～ 2023. 3. 31	学校経営・運営に対する評価・意見
非常勤	EQWEL チャイルドアカデミー 講師	2021. 4. 1 ～ 2023. 3. 31	学校経営・運営に対する評価・意見
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	富山情報ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 浦山学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画(シラバス)は12月頃に次年度のシラバス掲載内容について学内(教務部)で検討している。 ・2～3月頃、教育部で次年度のシラバス記載内容をチェックしている。 ・3月頃に学科毎にHPにて公開している。 ・シラバスには下記項目を記載している。 授業方法(講義・演習など)、授業科目の概要、授業計画、学習目標、成績評価の方法・基準、事前事後学習(予習・復習等) など 	
授業計画書の公表方法	https://www.bit.urayama.ac.jp/bitbox#information
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画(シラバス)では各科目で学修成果の評価基準を明記し、学生はあらかじめその基準を把握する事ができる。 ・評価基準は、日々の授業における取り組みを評価することとし、シラバスに記載している。「課題」・「授業姿勢」・「テストその他」の3つの評価基準であり、授業方法などにより項目や割合は異なるが、学修意欲や学修成果を適切に把握する事ができる。 ・シラバスに記載された成績評価の方法・基準のとおり、学修成果の評価を行い、これに基づき単位の授与又は履修の認定を行っている。 ・成績基準(A～F)については、ハンドブックの「履修しおり 8. 成績の評価」に掲載し、学生へ配布している。 	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

・成績評価に基づく GPA の算出方法について

シラバスの評価基準に基づきすべての科目の成績を A～F のいずれかによって決定。また下記の算出方法により当期 GPA および累積(通算)GPA を算出。

① 本校 GPA の成績評価 (A～F) とグレードポイント (4.0～0.0)

成績評価	グレードポイント	評価内容
A	4.0	100 点中 90 点以上 特に優れた成績を示した
B	3.0	89 点～80 点 優れた成績を示した
C	2.0	79 点～70 点 合格と認められる成績を示した
D	1.0	69 点～60 点 単位を認定する最低限度の成績を示した
F	0.0	59 点以下 単位認定を認められるに足る成績を示さなかった

② GPA (1 単位当たりの平均成績) 算出方法

$$GPA = \frac{(4 \times A \text{ 修得単位数}) + (3 \times B \text{ 修得単位数}) + (2 \times C \text{ 修得単位数}) + (1 \times D \text{ 修得単位数})}{\text{総履修単位数 (A～F を含む)}}$$

・ GPA の算出方法はハンドブックを通してオリエンテーションなどで説明する事で学生に周知されている。またハンドブックをHPで公開し広く一般に示している。

・ 学生の成績は科目毎のシラバスに記載された成績評価の方法・基準に基づき評価され、学生にあらかじめ設定した客観的な算出方法・基準に基づき判定されている。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

ハンドブック P24、25 に掲載
https://www.bit.urayama.ac.jp/data/4_parents/2_handbook_2021.pdf

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

所属学科のディプロマ・ポリシーに基づいた評価基準のもと成績評価を行い、卒業基準に従って判定を行っている。

卒業するためには、次に挙げる要件をすべて満たしていることが必要である。

- ① 必要単位数 (卒業基準単位) の取得、② 必修科目単位を全て取得、
- ③ GPA (2.0) 以上の取得、④ 学費等の全額納入

学科名	卒業に必要な単位数および時間数
高度情報システム学科	136 単位
情報システム学科	65 単位
モバイルビジネス学科	67 単位
ホテル・ブライダル学科	64 単位
医療事務学科	69 単位
診療情報管理士専攻学科	31 単位
インターナショナルビジネス学科	71 単位

卒業の認定に関する
方針の公表方法

Bit ハンドブックに記載
https://www.bit.urayama.ac.jp/data/4_parents/2_handbook_2021.pdf

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	富山情報ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 浦山学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.urayama.ac.jp/report/
収支計算書又は損益計算書	https://www.urayama.ac.jp/report/
財産目録	https://www.urayama.ac.jp/report/
事業報告書	https://www.urayama.ac.jp/report/
監事による監査報告（書）	https://www.urayama.ac.jp/report/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	高度情報システム学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼間	3420 (136 単位) 単位時間/単位	660 (44 単位) 単位時間/ 単位	3090 (103 単位) 単位時間 /単位	0 単位時 間/単位	0 単位時 間/単位	0 単位時間 /単位
			3750 (147 単位) 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員 数	総教員数	
20人		4人	0人	1人	6人	7人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 学期制度：前期：4月1日～8月31日、後期：9月1日～3月31日、授業：1講時90分 所属する学科ごとに授業科目、単位数、履修年次を体系的に編成したカリキュラムに そって学習を進め、試験に合格して単位を修得する単位制であり、すべての科目につ いて所定の単位数がさだめられており、授業に出席し、所定の基準に従って採点され 合格点を与えられた場合単位が与えられる
成績評価の基準・方法
（概要） 基準：A(90点以上)、B(80点以上)、C(70点以上)、D(60点以上)、F(60点未 満)の5段階で評価し、Fを不認定とする。 方法：評価は、前期および後期それぞれの期末に行う。授業時間の8割以上の出席で 評価対象となる。シラバス記載の課題・授業態度・テストその他の要素を一定割合の 評価点として算出し、合計する

卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業条件：GPA（評定平均値）2.0 ポイント以上 取得単位数：136 単位以上、必修単位を取得していること 進級条件：2 年次への進級 34 単位以上、 3 年次への進級 69 単位以上、 4 年次への進級 105 単位以上
学修支援等
(概要) クラス担任制としており、定期的な生活指導を行っている

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
6 人 (100%)	0 人 (0%)	6 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 情報サービス業、ソフトウェア業			
(就職指導内容) ・履歴書指導、面接指導 ・求人紹介			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者、応用情報技術者、データベーススペシャリスト、情報処理安全確保支援士			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12 人	2 人	16.7%
(中途退学の主な理由) ・進路変更のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・定期的な個別カウンセリング		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報システム学科	○	—			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1725 (65 単位) 単位時間/単位	570 (38 単位) 単位時間 /単位	3660 (122 単位) 単位時間 /単位	45 (1 単位) 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			4275 (161 単位) 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	113人	0人	5人	10人	15人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>学期制度：前期：4月1日～8月31日、後期：9月1日～3月31日、 授業：1講時90分 所属する学科ごとに授業科目、単位数、履修年次を体系的に編成したカリキュラムにそ って学習を進め、試験に合格して単位を修得する単位制であり、すべての科目について 所定の単位数がさだめられており、授業に出席し、所定の基準に従って採点され合格点 を与えられた場合単位が与えられる</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>基準：A(90点以上)、B(80点以上)、C(70点以上)、D(60点以上)、F(60点未 満)の5段階で評価し、Fを不認定とする。 方法：評価は、前期および後期それぞれの期末に行う。授業時間の8割以上の出席で 評価対象となる。シラバス記載の課題・授業態度・テストその他の要素を一定割合の評 価点として算出し、合計する</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>卒業条件：GPA(評定平均値)2.0ポイント以上 取得単位数：65単位以上、必修単位を取得していること 進級条件：34単位以上</p>
<p>学修支援等</p> <p>クラス担任制としており、定期的な生活指導を行っている</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
40 人 (100%)	0 人 (0%)	40 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） IT 系企業・情報処理産業			
（就職指導内容） ・企業展示見学 ・リクルートセミナー参加 ・カウンセリング実施 ・履歴書指導、面接指導・求人紹介			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
92 人	6 人	6.5%
（中途退学の主な理由） ・進路変更 就職のため ・体調不良のため		
（中退防止・中退者支援のための取組） 定期的な個別カウンセリング		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	モバイルビジネス学科	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1725 (67 単位) 単位時間/単位	300 (20 単位) 単位時間/単位	1620 (54 単位) 単位時間/単位	45 (1 単位) 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			1965 (75 単位) 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		21 人	0 人	2 人	7 人	9 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>学期制度：前期：4月1日～8月31日、後期：9月1日～3月31日、 授業：1講時90分</p> <p>所属する学科ごとに授業科目、単位数、履修年次を体系的に編成したカリキュラムにそって学習を進め、試験に合格して単位を修得する単位制であり、すべての科目について所定の単位数がさだめられており、授業に出席し、所定の基準に従って採点され合格点を与えられた場合単位が与えられる</p>
成績評価の基準・方法
<p>基準：A(90点以上)、B(80点以上)、C(70点以上)、D(60点以上)、F(60点未満)の5段階で評価し、Fを不認定とする。</p> <p>方法：評価は、前期および後期それぞれの期末に行う。授業時間の8割以上の出席で評価対象となる。シラバス記載の課題・授業態度・テストその他の要素を一定割合の評価点として算出し、合計する</p>
卒業・進級の認定基準
<p>卒業条件：GPA(評定平均値)2.0ポイント以上 取得単位数：67単位以上、必修単位を取得していること</p> <p>進級条件：34単位以上</p>
学修支援等
<p>クラス担任制としており、定期的な生活指導を行っている</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11人 (100%)	0人 (%)	10 (90.9%)	1人 (9.1%)
（主な就職、業界等） デザイン職、動画作成職、事務職			
（就職指導内容） ・ カウンセリング実施 ・ 履歴書指導、面接指導・ 求人紹介個別に対応			
（主な学修成果（資格・検定等）） 色彩検定、ワープロ検定			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
23人	5人	21.7%
（中途退学の主な理由） 進路変更 就職のため		
（中退防止・中退者支援のための取組） 定期的な個別カウンセリング		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	ホテル・ブライダル学科	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1710 (64 単位) 単位時間/単位	240 (16 単位) 単位時間/単位	1260 (42 単位) 単位時間/単位	900 (20 単位) 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			2400 (78 単位) 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		10 人	2 人	2 人	5 人	7 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>学期制度：前期：4月1日～8月31日、後期：9月1日～3月31日、授業：1講時90分</p> <p>所属する学科ごとに授業科目、単位数、履修年次を体系的に編成したカリキュラムにそって学習を進め、試験に合格して単位を修得する単位制であり、すべての科目について所定の単位数がさだめられており、授業に出席し、所定の基準に従って採点され合格点を与えられた場合単位が与えられる</p>
成績評価の基準・方法
<p>基準：A(90点以上)、B(80点以上)、C(70点以上)、D(60点以上)、F(60点未満)の5段階で評価し、Fを不認定とする。</p> <p>方法：評価は、前期および後期それぞれの期末に行う。授業時間の8割以上の出席で評価対象となる。シラバス記載の課題・授業態度・テストその他の要素を一定割合の評価点として算出し、合計する</p>
卒業・進級の認定基準
<p>卒業条件：GPA(評定平均値)2.0ポイント以上 取得単位数：64単位以上、必修単位を取得していること</p> <p>進級条件：38単位以上</p>
学修支援等
<p>クラス担任制としており、定期的な生活指導を行っている</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	5人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） ホテル・旅館・結婚式場			
（就職指導内容） 履歴書指導 ・ 面接指導 ・ 求人紹介			
（主な学修成果（資格・検定等）） ホテルビジネス実務検定、アシスタントウエディングプランナー検定、ウエディングスビューティフルディプロマ、サービス接客検定、TOEIC			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
6人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 毎月1回の面談を実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門 課程	医療事務学科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1700(69単位) 単位時間/単位	435 (29単位) 単位時間 /単位	1800 (60単位) 単位時間 /単位	900 (20単位) 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			3135(109単位)単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	65人	0人	1人	5人	6人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>学期制度：前期：4月1日～8月31日、後期：9月1日～3月31日、授業：1講時90分</p> <p>所属する学科ごとに授業科目、単位数、履修年次を体系的に編成したカリキュラムにそって学習を進め、試験に合格して単位を修得する単位制であり、すべての科目について所定の単位数がさだめられており、授業に出席し、所定の基準に従って採点され合格点を与えられた場合単位が与えられる</p>
成績評価の基準・方法
<p>基準：A(90点以上)、B(80点以上)、C(70点以上)、D(60点以上)、F(60点未満)の5段階で評価し、Fを不認定とする。</p> <p>方法：評価は、前期および後期それぞれの期末に行う。授業時間の8割以上の出席で評価対象となる。シラバス記載の課題・授業態度・テストその他の要素を一定割合の評価点として算出し、合計する</p>
卒業・進級の認定基準
<p>卒業条件：GPA(評定平均値)2.0ポイント以上 取得単位数：69単位以上、必修単位を取得していること</p> <p>進級条件：34単位以上</p>
学修支援等
<p>クラス担任制としており、定期的な生活指導を行っている</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25人 (100%)	18人 (72%)	5人 (20%)	2人 (8%)
（主な就職、業界等） 医療機関			
（就職指導内容） ・履歴書指導 ・面接指導 ・求人紹介			
（主な学修成果（資格・検定等）） 医療事務管理士技能認定試験（医科）、医療事務管理士技能認定試験（歯科） 調剤事務管理士技能認定試験、介護事務技能認定試験、医師事務作業補助者技能認定試験			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
65人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 定期的なカウンセリング、面談の実施。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	診療情報管理士研究科	—	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	800(31単位) 単位時間/単位	225 (15単位) 単位時間/単位	510 (17単位) 単位時間/単位	135 (3単位) 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			870(35単位)単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		18人	0人	1人	7人	8人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>学期制度：前期：4月1日～8月31日、後期：9月1日～3月31日、授業：1講時90分</p> <p>所属する学科ごとに授業科目、単位数、履修年次を体系的に編成したカリキュラムにそって学習を進め、試験に合格して単位を修得する単位制であり、すべての科目について所定の単位数がさだめられており、授業に出席し、所定の基準に従って採点され合格点を与えられた場合単位が与えられる</p>
成績評価の基準・方法
<p>基準：A(90点以上)、B(80点以上)、C(70点以上)、D(60点以上)、F(60点未満)の5段階で評価し、Fを不認定とする。</p> <p>方法：評価は、前期および後期それぞれの期末に行う。授業時間の8割以上の出席で評価対象となる。シラバス記載の課題・授業態度・テストその他の要素を一定割合の評価点として算出し、合計する</p>
卒業・進級の認定基準
<p>卒業条件：GPA（評定平均値）2.0ポイント以上</p> <p>取得単位数：31単位以上、必修単位を取得していること</p>
学修支援等
<p>クラス担任制としており、定期的な生活指導を行っている</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
17人 (100%)	0人 (0%)	15人 (88.2%)	2人 (11.8%)
（主な就職、業界等） 医療機関			
（就職指導内容） ・履歴書指導、面接指導 ・求人紹介			
（主な学修成果（資格・検定等）） 診療情報管理士認定試験			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
17人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 定期的なカウンセリング、面談の実施。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門 課程	インターナショナルビ ジネス学科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1725(71単位) 単位時間/単位	420 (28単位) 単位時間 /単位	1500 (50単位) 単位時間 /単位	45 (1単位) 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			1965(79単位)単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		50人	50人	2人	5人	7人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>学期制度：前期：4月1日～8月31日、後期：9月1日～3月31日、授業：1講 時90分</p> <p>所属する学科ごとに授業科目、単位数、履修年次を体系的に編成したカリキュラム にそって学習を進め、試験に合格して単位を修得する単位制であり、すべての科目 について所定の単位数がさだめられており、授業に出席し、所定の基準に従って採 点され合格点を与えられた場合単位が与えられる</p>
成績評価の基準・方法
<p>基準：A(90点以上)、B(80点以上)、C(70点以上)、D(60点以上)、F(60点未 満)の5段階で評価し、Fを不認定とする。</p> <p>方法：評価は、前期および後期それぞれの期末に行う。授業時間の8割以上の出席で評 価対象となる。シラバス記載の課題・授業態度・テストその他の要素を一定割合の評価 点として算出し、合計する</p>
卒業・進級の認定基準
<p>卒業条件：GPA(評定平均値)2.0ポイント以上 取得単位数：71単位以上、必修単位を取得していること 進級条件：34単位以上</p>
学修支援等
<p>クラス担任制としており、定期的な生活指導を行っている</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
19人 (100%)	0人 (0%)	16人 (84.2%)	3人 (15.8%)
（主な就職、業界等） 飲食業、宿泊業、等			
（就職指導内容） 日本企業（国内）への就職にあたっては、JLPT 日本語能力試験における N1 ないし N2 レベルの到達（試験合格）が望ましく、日本語能力の研鑽を奨励している。同時に、将来、自分が就職したい分野（会社）の研究をしっかり行い、ミスマッチの起きないような就職活動の展開にむけて指導している			
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本語能力試験（JLPT）： N1 合格 1 名、N2 合格 2 名、N3 合格 3 名 TOEIC： 600 点以上 1 名（900 点以上			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
42 人	6 人	14.3%
（中途退学の主な理由） 経済的理由		
（中退防止・中退者支援のための取組） 各学生の出席の状況を常に注視し、欠席が目立つような学生に対して、徹底して個別指導を行う。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
高度情報システム	190,000 円	560,000 円	240,000 円	
情報システム	190,000 円	590,000 円	240,000 円	
モバイルビジネス	190,000 円	590,000 円	240,000 円	
ホテル・ブライダル	190,000 円	590,000 円	240,000 円	
医療事務	190,000 円	590,000 円	240,000 円	
診療情報管理士研究	190,000 円	590,000 円	340,000 円	
インターナショナルビジネス	190,000 円	590,000 円	240,000 円	
日本語 1年課程	190,000 円	640,000 円	150,000 円	留学生のみの学科
日本語 1年半課程	190,000 円	240,000 円	110,000 円	留学生のみの学科
日本語 2年課程	190,000 円	480,000 円	150,000 円	留学生のみの学科
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.bit.urayama.ac.jp/bitbox#information
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学校関係者委員会を構成する委員は、4名以上とし、学校の教職員以外の者で次に掲げる者のうちから、校長が委嘱している。 (1) 保護者 (2) 専門学校卒業生 (3) 地域住民 (4) 地元企業関係者 (5) 高等学校関係者 (6) 学校関係者 (7) その他教育に関する有識者 当校で行っている自己点検・評価に基づき、次の項目の評価を実施している。 基準Ⅰ-A 建学の精神 基準Ⅰ-B 教育の効果 基準Ⅰ-C 自己点検・評価 基準Ⅱ-A 教育課程 基準Ⅱ-B 学生支援 基準Ⅲ-A 人的資源 基準Ⅲ-B 物的資源 基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源 基準Ⅲ-D 財的資源 基準Ⅳ-A 理事長のリーダーシップ 基準Ⅳ-B 校長のリーダーシップ 基準Ⅳ-C ガバナンス

前年度の自己点検・評価の課題とその対応について上記テーマにあわせて報告し、結果について評価を受ける。また次年度への課題とその対応についても同様に具体化し、教育活動その他の学校運営の改善等に活用している。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社 文苑堂書店 代表取締役 会長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日	企業
高岡龍谷高等学校 校長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日	高等学校
富山情報ビジネス専門学校 同窓会 会長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日	卒業生
富山情報ビジネス専門学校 後援会 会長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日	PTA
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.bit.urayama.ac.jp/bitbox#information		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.bit.urayama.ac.jp/
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	富山情報ビジネス専門学校
設置者名	学校法人 浦山学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		20人	16人	20人
内 訳	第Ⅰ区分	-人	-人	
	第Ⅱ区分	-人	-人	
	第Ⅲ区分	-人	-人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				20人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	一人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。